KUMAGAYA 20 Anniversary
進め、明日のその先へ

くまがや

農委だより

No. 83
令和8年
1月1日発行

ねぎ栽培
稲見さんご夫妻

大和芋栽培
高階さん

酪農
市堀さん

新年の挨拶

熊谷市農業委員会長　夏目　亮一

あけましておめでとうございます。

昨年は一年を通じて米価の高騰が国民の大きな関心を集めた年となりました。米が売り場の陳列棚から消える時期もあり、「食の安全保障」について真剣に思いをめぐらした方も多いのではないでしょうか。令和7年産の新米が出回る時期となっても米価の高止まりが続いており、生産者、消費者の「適正価格」に対する議論が必要なのではないかと思います。

また、昨年４月から１０年後の農業を見据え、道筋を策定する「地域計画」が市内全域、２４地区で決定されました。この計画は、見直しを随時行うことにより実情に沿ったものとなるよう、すでに半数の地区で1回目の変更を実施し、残りの地区についても現在、話し合いが行われているところです。こうした取り組みを確実に進めるためには、農業現場で進む高齢化、担い手不足の解決が喫緊の課題となっており、新規就農に少しでも御興味のある方は是非、農業委員会へ御相談くださいますようお願いいたします。

小林市長による市政も２期目に入り、「新・７つの基本政策」の中で「元気な産業が生まれ育つまち創り」を掲げ、農業の振興に意を注ぐと伺っておりますので、我々農業委員会もそれに応えられるよう、結束して本市農業の発展のため一層努力してまいります。また、農業が元気になるよう、地産地消など皆様の御協力を心よりお願い申し上げます。

結びに本年が天候に恵まれ作物が豊かに実を結ぶ年となるよう、市民皆様にとって願いが実を結ぶ年となるよう祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

新年の挨拶

熊谷市長　小林　哲也

あけましておめでとうございます。皆様には、希望と期待に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、昨秋の市長選挙において、再び市政を託されましたことは、私にとりまして大きな光栄とするところであります。そして同時に、市民皆様とともに熊谷で暮らすことの価値を実感できるまちづくりを進められる喜びと責任に身の引き締まる思いを強くいたしております。

前任期の４年間において「新熊谷プライドの創造」を掲げ様々な政策を実施してまいりました。その蒔いた種が今後の４年間で芽吹き、実を結ぶよう「新熊谷ブランドの創造」を政策理念に掲げ、新・７つの基本政策を実行に移してまいります。

その基本政策のひとつである「元気な産業が生まれ育つまち創り」において、農業の基盤となる農業生産基盤整備、地域の農作物を地域で積極的に活かしていく地産地消、農業に可能性を見出し、新たに就農をする人を力強く応援する新規就農総合支援事業などの推進を通じて、本市農業がより元気な産業となるよう努めてまいります。また、本格始動する熊谷ブランド「晴れまち」の中で、熊谷産農作物も含めた様々なコンテンツを「内外に誇れる熊谷」として大きく発信してまいります。

本市農業の発展には、農家の皆様はもとより市民の皆様の協力、そして、農業委員会の活躍、活動が欠かせません。本市農業をより元気にできるよう課題を共有し、ともに手を携えて取り組んでまいる所存です。

結びに、新しい年が皆様にとりまして誇りにあふれる年となりますよう祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

稲見和夫さん、喜代子さんご夫妻　（葛和田）　ねぎ栽培

稲見和夫さん、喜代子さんご夫妻は、15年前から本格的にネギ栽培を始めました。現在は、50アールの畑で栽培を行っています。丹精込めて立派に育ったネギを、和夫さんがトラクターで掘り起こし、喜代子さんとともにネギを束ね、出荷に向けた準備をご夫婦の見事な連携で行っています。

ネギでは連作障害がおこることがあり、連作を避ける気配りはもちろん、作付け前の土壌消毒や施肥など、おいしいネギを育てるために様々な工夫をしています。そうした努力が実り、昨年度開催された熊谷市農産物共進会において埼玉県知事賞に輝きました。

今年も、新年明けてすぐに新しいねぎの準備が始まり、秋には、美味しいねぎが収穫できるようご夫婦での作業は続きます。

高階 千晴さん　（妻沼小島）　大和芋栽培

高階千晴さんは妻沼小島地区の野村ファームに勤め、大和芋、短根ゴボウ、ゴマの栽培に携わっています。

農業を始めたきっかけは、前職の八百屋で、食や農業への重要さを感じたためです。将来的には自立経営をしたいとの希望があります。

全く経験がなかった農業を始めてから5年、今でも栽培に適した土壌を選ぶことや夏場の適切な水の管理など学ぶところは多く、とくに昨年は猛暑が続き、大和芋栽培には苦労しましたが、収穫の喜びはひとしおでした。

大和芋の収穫期は10月から3月と長く、収穫後は冷蔵庫に保存し1年を通して出荷しています。市内のJAふれあいセンター妻沼店、箱田店で購入できるとのことです。

今後も熊谷に住み続けて農業をやっていきたいと話す高階さん。地域の担い手としての活躍が期待されます。

市堀 篤樹さん　（弥藤吾）　酪農

代々酪農を営み、会社を退職し家業を継いだ市堀篤樹さんは、現在約30頭の乳牛の飼育を家族と共に行っています。近年の地球温暖化の影響で、夏場の猛暑時には大型の扇風機などをフル稼働させても、乳の出が悪くなるなど牛の体調管理が難しくなったり、電気代がかさんだりするなど大変なことも多いですが、酪農の素晴らしさ、大切さを伝えるために、県内の小学校に牛の親子とともに訪問する「わくわくモーモースクール」の活動にも取り組んでいます。この催しでは、児童たちが子牛と触れ合ったり、乳搾りやバター作り体験をしたりして、命の大切さ、酪農の大切さを学んでいます。

また、市堀さんは昨年度、熊谷市優良農家として表彰され、今後も自家製飼料の給餌による安全な生乳の提供を続けていきたいと話されました。

優良農家表彰

12月24日優良農家が表彰されました。今年は、2個人が表彰されましたので紹介します（順不同）

荻原 正裕さん

永井太田
【部門】園芸施設

- 平成28年から環境制御技術を取り入れ、日射比例潅水装置を利用した養液土耕にも取り組み、収量の増加や品質の向上に取り組んでいます。
- ＪＡくまがや・福祉施設と協力し、きゅうりの簡易規格での出荷による農福連携を行っています。
- 平成27年、埼玉県指導農業士に認定され、新規就農者等の育成において指導的役割を果たしています。

中野 拓海さん

飯塚
【部門】主穀

- 第三者経営継承後、規模拡大を進めています。
- 多品種の米を作付けし、その栽培管理等を地域に技術指導しています。
- 米の直播栽培により、労働時間短縮・労力の軽減に取り組んでいます。

令和８年度熊谷市農業施策に関する意見書を提出

農業委員会では、農業に関する専門的立場から農業委員会等に関する法律に基づき、熊谷市の農地利用の最適化をより効率的かつ効果的に実施するために必要な施策の改善等について意見を取りまとめ、１０月３日、夏目農業委員会会長、田中会長職務代理から小林市長に意見書を提出しました。

遊休農地対策や農地の有効活用、担い手の育成支援などについて、８項目にわたって提言をしています。増加の一途をたどる遊休農地対策について、地域全体で農地を守るため、地域営農組合の設立や拡大、基盤整備の推進強化、地域の核となる担い手農家への支援と新規就農者の呼び込みなど様々な角度からの提言を行いました。とくに、令和７年４月から始まった地域計画について、現状の変化などに対応して見直しを適宜行うことなどを夏目会長、田中職務代理から要望を行いました。農業委員会は、生命の根源である食の生産基盤を守るため、必要に応じた意見を表明し、熊谷の農業の発展のため全力で活動してまいります。

第21回熊谷市産業祭にご来場いただきありがとうございました

11月15日(土)・16日(日)、熊谷スポーツ文化公園において熊谷市産業祭を開催しました。当日は好天に恵まれ、地元農産物の販売、商工業関連の展示・販売、農産物共進会等の催しのほか、彩の国食と農林業ドリームフェスタ、くまがや交通安全フェアとのコラボ開催により、2日間で約7万2千人が来場し、熊谷市誕生20周年記念にふさわしい活気あふれた産業祭となりました。

第21回熊谷市産業祭農産物共進会優秀賞受賞者一覧（順不同・敬称略）

品　目	氏　名	支店名
玄米	めぬまファーム㈱	妻沼東
玄米	大　山　　茂	妻沼西
玄米	鯨　井　勘　司	別府玉井
小麦	飯　嶋　竹　夫	江南
小麦	めぬまファーム㈱	妻沼東
大豆	長谷川　満江	山王三尻
小豆	鈴木　三佐江	佐久良
ごま	長谷川　満江	山王三尻
大和芋	髙橋　富司夫	妻沼西
大和芋	野　村　孝　光	妻沼西
里芋	山　岸　君　子	佐久良
ねぎ	新　島　利　彦	妻沼西
ねぎ	髙　橋　秀　和	妻沼西

品　目	氏　名	支店名
ねぎ	新　島　徳　彦	妻沼西
白菜	森屋　富美子	別府玉井
ブロッコリー	坂　田　忠　雄	妻沼西
大根	富　田　喜　一	別府玉井
キャベツ	富　田　喜　一	別府玉井
きゅうり	神　山　幸　由	妻沼西
青パパイヤ	小　林　正　博	妻沼西
ロロンカボチャ	市　川　　晃	妻沼東
かぶ	鈴　木　吉　明	妻沼東
キウイフルーツ	大久保　忠次	大里
栗	髙　橋　文　子	江南
味噌	花輪　みつ子	奈良中条
味噌	塚　本　珠　江	奈良中条

あなたの農業、バトンを渡してみませんか？

埼玉県の基幹的農業従事者数（主な仕事が農業の人）は約5万人です（2020年農業センサス）。このうち、65歳以上が67％と世代間のバランスが著しく偏っているため、経営の円滑な継承が大きな課題となっています。

特に、熊谷市は米麦を中心に栽培する大規模主穀作経営が多いことが特徴です。一つの経営体の継承がうまくいかず、農業をやめてしまうだけで、農地利用や農業環境に影響が出て、地域農業の衰退につながってしまう恐れがあります。

そのような中で、熊谷市内においても親族以外の第三者へ農業経営を移譲する、「第三者経営継承」の事例が見られるようになってきました。経営継承の一つの形として、「第三者経営継承」を考えてみませんか。

第三者経営継承イメージ

リスト化 ▶ マッチング ▶ 雇用期間（2～3年） ▶ 継承時

売却するだけでなく培ったノウハウを次代に残したい

移譲希望者

既存の経営を引継いで就農したい

継承希望者（新規就農者）

双方の意向確認

「無形資産」の引継ぎ
- 経営ノウハウ
- 栽培技術
- 仕入れルート
- 販売ルート
- 地域の信頼等

「有形資産」の引継ぎ
- 農業施設
- 農業機械
- 農業資材
- 農地
- 果樹棚等

対象者

- 移譲希望者：有形資産および無形資産を新たな担い手へ引継ぎを希望する農業者
- 継承希望者：既存の経営を引き継いで就農を希望する者（例：新規就農者、農業法人の従業員等）

第三者経営継承事例

【事例①】 雇用をきっかけに経営継承

きっかけ：非農家出身であったが近隣の主穀農家に雇用された

経　　過：1・2年目　従業員として農業に従事
　　3年目　雇用主から経営移譲の話を受ける
　　4年目　経営継承に関する合意書を締結し経営継承

【事例②】 研修先から経営継承

きっかけ：農業技術習得のため農業大学校に進学

経　　過：1年目　農家研修先から経営継承の話を受ける
　　2年目　小麦を自分で作付けし就農　研修先からの指導を受ける
　　3年目　水稲を作付けし、農地を譲り受けて経営継承

「第三者経営継承」に興味のある方はお気軽に大里農林振興センターまで御連絡をお願いします。

◆大里農林振興センター農業支援部　TEL 048-526-2210

よもやま話

自然環境とホタル

農業委員
東部第１地区
関根　一三

私の育ったところは、北側に元荒川が流れ、南側に荒川堤防がある位置である。

子供の頃、元荒川は清流が流れ地域の生活水に活用され、また植物の生育・魚貝類の住める川であり、6月の麦刈りシーズンにはホタルが乱舞していたものであった。

昭和30年代後半には、元荒川周辺の都市化とともに汚水等が流入し魚貝類の住めない川に変貌した。(現在は多くの魚が住める環境、でも元の環境までは･･･)

平成12年に久下小学校校内にビオトープ(ドイツ語で生物の生息空間)を作ろうと当時の校長から声を掛けられ、子供達の環境教育の一環となればと考え賛同し、測量・設計を行い、平成13年6月に着工、久下小学校区の人々、協力会社とともに10月に完成させた。

久下・太井ホタル愛好会を創設してビオトープにホタルを自然発生(発生率3%程度)させるべく努力したが非常に難しく、会員によるホタルの飼育をすることになって、平成16年6月に第1回ホタル観賞会を開催し、令和7年まで継続している。(コロナ期の数年は開催なし)

この趣旨は、ホタル観賞会を通して元荒川にホタルや魚貝類の住める環境を作っていくことのメッセージだと思っている。農業も自然環境との闘いであり、その中で良いものを栽培する、ホタルの住める自然環境づくりと同じように思える。

農業体験

農地利用最適化推進委員
西部第２地区
髙橋　文雄

同級生が集まると、ついつい昔話が始まる。中学生の時に農繁休暇があって、先生から「みんな家の手伝いをするように」と言われて一斉に休暇入りした覚えがある。今思うと、当時はゆっくりと時間が流れる中、自然体で農業を体験していたのだ。そして、みんなの左手には大体１～２本の鎌の傷跡があり、変な連帯感を感じていたものだと良き時代を回想している。

私は、農業団体に勤務していたが、熊谷中央(玉井)土地改良区の工事が完成したのをきっかけに定年後に稲作を始めた。

昨年は、米に関心が高まった影響からか、突然東京の若者二人から農業体験をしたいとの話が舞い込んだ。事前に田植予定日を伝え、当日は防暑対策を施し、要望の田植機を体験させることができた。

そして秋には、コンバインに乗り収穫作業を行った。「農作業は気分爽快で心底リフレッシュできた」と喜んでくれた。「来年も来たい」と真剣な眼差しで言われたとき、農業の魅力についてアピール不足を強く感じた。

お借りできる農機具や作業場はありませんか？

これから熊谷で就農しようとする方に、トラクターや作業場を貸していただける方を探しています。現在使っていない農機具や作業場などがありましたら、農業政策課までご連絡ください。市が、借りたい方と貸したい方の連絡調整を行います。

◆農業政策課　TEL 048-588-9990(直通)

令和7年度 熊谷市農地パトロールの結果公表

遊休農地の面積は127.6ha 昨年から約10.4ha増加

農業委員会では、９月に農業委員と農地利用最適化推進委員が協力し、市内全域の農地パトロールを実施しました。

単位(㎡)

新たな遊休農地	再発生遊休農地	解消された遊休農地	令和7年度遊休農地
231,912	17,307	147,156	1,275,868

知って役立つ！農業の最新情報～水稲・野菜・担い手対策～

害虫、高温、担い手不足・・・農業の抱える課題解決に役立つ講演会を開催します。農家の方はもちろん、農業に興味のある方も是非ご参加ください。入場無料です。

と　き　令和８年２月４日(水)　１３時３０分から

ところ　妻沼中央公民館大ホール(熊谷市妻沼東一丁目1番地)

内　容

第1部	第2部
「近年の水稲におけるカメムシ類の発生動向と対策」 講師：農業技術研究センター病害虫防除対策担当(埼玉県病害虫防除所) 部長　**酒井 和彦 氏**	**「野菜の高温対策の最新情報」** 講師：大里農林振興センター農業支援部 **和田 駿一 氏** **「法人化・第三者経営継承について」** 講師：大里農林振興センター農業支援部 (法人化)**横塚 千慧 氏** (第三者経営継承)**本間 利明 氏**

主催　熊谷市担い手育成協議会　熊谷市農業経営者協議会

◆ 農業政策課　TEL 048-588-9990
農業委員会事務局　TEL 048-501-5501

第38回全国健康福祉祭埼玉大会
ねんりんピック 彩の国さいたま2026
咲き誇れ！長寿と笑顔 彩の国
令和8年11月7日(土)～10日(火)

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の人を中心とした健康と福祉の総合的な祭典です。毎年開催されており、昨年は岐阜県、そして今年は埼玉県で開催され、熊谷市では総合開会式のほか、ソフトテニスとラグビーフットボールの交流大会が行われます。
詳しくはホームページをご覧ください。

★協賛団体募集中！★

ねんりんピック彩の国さいたま2026熊谷市交流大会にかかる協賛企業様、団体様を募集します。一緒にねんりんピックを盛り上げましょう！！

◆長寿いきがい課ねんりんピック担当　TEL 048-524-1111　内線２３９

編 集 後 記

新年あけましておめでとうございます。

昨年も多くの皆様に農業委員会の活動へ御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本年も地域農業の発展と農地の適切な保全に努めてまいります。皆様にとって実り多い一年となりますよう祈念しつつ、引き続きよろしくお願いいたします。

(編集委員　中島　正樹)

編 集 委 員

委員長	森田　豊
副委員長	伊藤 由行
委員	福田 和行
委員	関口 裕美
委員	権田 久男
委員	関根 一三
委員	中島 正樹
委員	茂木 秀孝
委員	夏目 亮一
委員	田中 輝久

農業委員会
農委だより

熊谷市農業委員会　〒360-0292　埼玉県熊谷市弥藤吾2450番地(妻沼庁舎)
TEL 048-501-5501(直通)／FAX 048-588-1326

この「くまがや農委だより」は、8,400部作成し、印刷経費は1部当たり19.25円です。